

こだわりの高品質・迅速なサポートで急ピッチに ユーザを増やし続けるNTT DoCoMoのPASSAGE DUPLÉ



NTT DoCoMoが提供する「PASSAGE DUPLÉ」(パッセージ・デュプレ)が、いま企業の間で急速な普及をみせているのはそれなりの理由がある。もともとNTT DoCoMoの顧客ニーズから誕生したこのシステムは、IP化により通信コスト削減及び管理性向上をもたらすほか、モバイル化により生産性向上や運用コストの削減までも推進させてくれるからだ。導入したある大手企業などでは、年間4億円以上のコスト削減が見込まれるという。しかし、こうした機能やコスト面でのメリットもさることながら、もう一つの大きな理由は、高品質及び迅速なサポートが限りなく追求されていることによる、ユーザに与える安心感などを見逃すわけにはいかない。実はPASSAGE DUPLÉにおけるこうした高信頼、安心感をAirMagnet Surveyが支えているのである。そこで法人営業本部 ソリューションビジネス部 オフィスソリューション担当 寺岡淳氏、同 横田智幸氏にAirMagnet Survey導入までのいきさつ、そしてどのようなメリットを引き出されているのか等をおうかがいした。

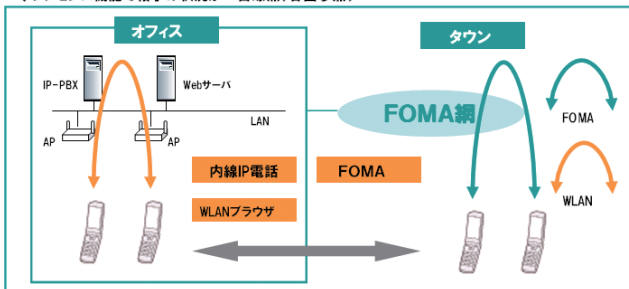
急速な普及をみせるPASSAGE DUPLÉ

PASSAGE DUPLÉが誕生したのは約2年前のことだ。当時、企業ユースにフォーカスし好評を博していたドッチーモ(Doccimo)と呼ばれるPHSとmovaのデュアル端末があったが、その後継機を望む声が多くユーザからあがっており、DualPhoneに対する根強いニーズを感じていた。さらに急速に拡大する「IP電話」市場へNTT DoCoMoから新たな提案が必要であった。こうした中、FOMA/WLANデュアル端末が誕生した、またこれに合わせモバイルソリューション『PASSAGE DUPLÉ』が登場したのである。寺岡氏は「特にWLAN搭載による付加機能を追求したかった、高速なWLANブラウザによりたとえばグループウェアとの連携が可能になること、またSIP(Session Initiation Protocol)を採用することによりプレゼンス機能やテキストメッセージまでも同一システムで提供可能になるなど、音声(電話)だけにとどまらない、付加価値をも提供することを目指しました。」と、PASSAGE DUPLÉの技術的なチャームポイントを強調する。結果、このSIP・WLANに代表されるオープンアーキテクチャに則ったソリューションであることも手伝い導入する企業が急速に増大、PASSAGE DUPLÉ対応のSIPサーバを投入するサーバベンダもこの2年間で数十社にのぼり、かつエンタープライズ向けWLAN市場も顕著な拡大をみせるほどの盛況ぶりをみせてきたのである。

PASSAGE DUPLÉ

「無線LAN搭載ケータイ」で実現するIP企業内線システム

- ◆FOMAならではの充実した機能
- ◆内線IP機能搭載で更にパワーアップ!
- ◇内線電話料はもちろん無料
- ◇内線端末同士の文字メッセージももちろん無料
- ◇社内LAN上のシステムへの快速アクセス
- ◇操作はシンプル、そのうえ多機能
- ◇プレゼンス機能で相手の状況が一目瞭然(右図参照)

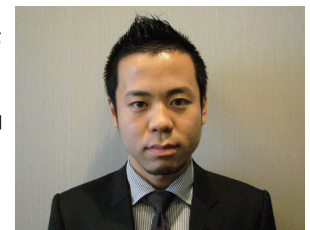


ユーザの実環境に沿った測定を求めて

PASSAGE DUPLÉは、基本的にはFOMA/WLANデュアル端末とWLAN (IEEE802.11a/b/g)アクセスポイント、SIPサーバなどを中核に構成される。そして社内においてはWLANを介してIP電話として使用でき、社外ではFOMAとして携帯電話機能を使える。これにより本社・拠点内では、1台のFOMA/WLANデュアル端末により「ワンナンバー」で対応でき大切な電話を逃がさなくてすむというわけだ。また、こうした音声のみにとどまらず、高速WLANブラウザによりイントラネットへのアクセス、企業データベースやグループウェア活用が可能となる。さらに登録メンバーのプレゼンス情報確認、簡単なメッセージをリアルタイムでやりとりできるインスタントメッセージ機能も備えている。そこで威力を発揮するのがAirMagnet Surveyだ。この検証・プレ構築段階で最大のポイントになるのが「お客様環境におけるWLAN設計をいかにわかりやすくビジュアル化し、効率よく迅速に、かつ正確にお客様環境を把握するか」(寺岡氏)であった。当初は、ユーザから引き合いがあると、WLANを構築すべきフロア図面上に細かな升目を引き、スペクトラムアナライザにより電波の状況を細かく調べ、WLANに必要なアクセスポイントの位置や台数等を割り出していた。しかしこれだと、測定者により調査結果のバラツキがあり、確度にも欠ける。またスペクトラムアナライザも決して廉価ではなく、使い方も容易ではない。



NTTドコモ
法人営業本部
ソリューションビジネス部
オフィスソリューション担当
寺岡 淳氏



NTTドコモ
法人営業本部
ソリューションビジネス部
オフィスソリューション担当
横田 智幸氏

さらに結果を出すまでに時間もかかるので、非能率的な点を免れない。

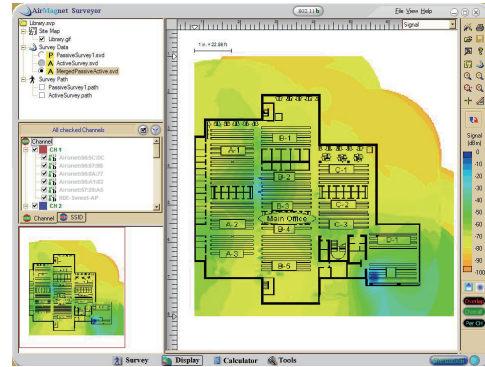
そこで、さらに的確な計測ソリューションを探しはしたものの、そのニーズにマッチしたものがなかなか見いだせなかった。横田氏はこうふりかえる。「シミュレータはよく目にした。だがこの方法は、マシン上にアクセスポイントを仮想で設置せざるを得ない。それに外来波や壁の材質、パーティションなど実現場の無線環境を掌握するには十分ではない。しかもCAD(Computer Aided Design)手法だからデータの inputs は容易ではないし、PCもかなりハイスペックを要求される。さらに結果を出すのに2~3日以上かかることもあった。これでは、迅速に正確に、というユーザーニーズを満足させる営業活動にはほど遠い」。そして、さまざまな検討を重ねていくうちに、AirMagnet Surveyに巡り会ったのである。

AirMagnet Surveyが実現させる高信頼とユーザーに与える安心感

寺岡氏は「お客様へWLANシステムを提案するに当たり最初の難関は、いかにお客様の利用形態・運用環境にあわせて、正確かつ迅速な提案ができるか?です。初期提案段階からお客様へ正確な情報、コスト見積もりを極力早くしてさしあげることで、お客様にご納得いただきお客様からの信頼を勝ち得ることができると確信しております、このためにAirMagnet Surveyはシミュレータを上回るベストソリューションだった」と言い切る。NTT DoCoMoでは、PASSAGE DUPLERを提案する際、まず入念なヒアリングから始まって机上設計、暫定見積もり、現地サーベイ、システム再設計・再見積もり、そして受注後に工事、運用前確認、運用後確認といった鉄壁のフローで臨んでいるが、AirMagnet Surveyはまさに、これを最大限にバックアップしえたのである。

ユーザー先での検証は、WLANを構築する環境において必要箇所でノートPCにインストールされたIEEE802.11a/b/g対応のAirMagnet Surveyで測定を行う。そうすると、検出したWLANアクセスポイントを中心とした電波状況が表示される。そしてgifやbmp、jpgなどにより、フロア図上に実際の電波強度やノイズなどが容易にマッピングされるので、WLAN提供エリアを視覚化でき、エリア全体の信号情報収集をはじめ理想的なアクセスポイントの設定、配置のサポート、雑音・チャネル妨害エリアの検出、無線クライアントのローミングポイントの確認など、PASSAGE DUPLERのWLANシステムインテグレーションに大きく貢献するというわけである。横田氏は「シミュレータによる方法は計算でデータを出していくのに対し、AirMagnet Surveyは実際にお客様の現場における各ポイントで確実に必要データを収集してくれる。測定に使用するPCもシミュレータのようにハイスペックでなくともよくWindowsライクな操作性でなじみやすい」とその快適な操作性を実感している。

なおNTT DoCoMoではAirMagnet Survey導入前からAirMagnet Laptop Trioも使用しているが、これは、現在どのようなアクセスポイントや端末が稼働しているか、などシステムそのものにかかわる測定に利用されているようだ。



AirMagnet Survey画面

無線LANの電波状況がグラフィカルに表示され、無線の伝播領域と強さが一目で確認できる。

東陽テクニカなどパートナー企業との協力関係でさらなる市場創出を

いまPASSAGE DUPLERを導入し効果をあげている企業は、小規模(デュアル端末20台)から大規模(デュアル端末4500台)まで幅広い。また業種も製造業、大手ガス会社、ソフトウェアベンダ、通信工事会社、コンサルタント業、流通業、卸・小売業ほか実に多岐に亘っている。

寺岡氏はインタビューの最期に、「移動体通信業界においては、ネットワークであれデバイスであれNTT DoCoMoが常に「チャレンジャー」として先陣を切らなければならないと認識しています。そういった意味で、WLANを活用したVoIPソリューションはNTT DoCoMoが業界を牽引してきている。PASSAGE DUPLERについて言えば既存の企業内線ユースにとどまらず、映像系やインスタントメッセージなどを活用した特定ユーザー向けのより高度なソリューションへ広がっていくことを予想しています。高度なソリューションをお客様へ提供するために、それぞれ強みを持ったパートナー企業との連携を強化していきたい。たとえばWLANで言えば東陽テクニカのような計測器ベンダあるいはSlerなどもWin-Winの関係をさらに拡大・強化し、そうした企業の協力関係のもと市場を創出していきたい。我々としてもこれまでの経験ノウハウを糧に万全の体制、準備ができました、今後のPASSAGE DUPLERの展開にご期待ください。」

と将来をにらんだますますの意欲をみせる。

FOMA® PASSAGE DUPLER® パッセージ・デュプレ® mova®は、NTT Docomoの登録商標です。



〒103-8284 東京都中央区八重洲1-1-6
 情報通信システム営業第2部
 TEL.03-3245-1250 <http://www.toyo.co.jp/airmagnet/>
 E-mail: airmagnet_sales@toyo.co.jp